

研究課題名	超音波内視鏡下穿刺吸引生検検体を用いた膵臓癌の予後、ゲムシタピン耐性におけるフェロトーシス関連物質の役割の検討
研究の意義・目的	膵臓癌は、予後不良の疾患です。現在、診断時後の治療は、抗がん剤による治療が主であるが、十分に治療効果が得られるものではありません。そのため、個別化医療の提供が望まれています。フェロトーシスという、新しい細胞死の概念が報告されました。膵臓癌は、このフェロトーシスという新しい細胞死の影響を受け、抗がん剤が効きにくく、予後が不良の可能性が示唆されています。本研究では、フェロトーシスに關与する物質（蛋白）に着目し、膵臓癌の予後予測およびゲムシタピン（膵臓癌に対する主となる抗癌剤の名称）の効果予測を検証することを目的とします。
研究を行う期間	「研究機関の長の研究実施許可日」～2026年4月
研究協力をお願いしたい方（対象者）	2017年3月～2022年4月の間に、大阪公立大学医学部附属病院の消化器内科、肝胆膵外科で、膵臓癌の診断で治療（外科的手術、化学療法、放射線療法）を受けた方、20歳以上であり内視鏡を用い膵臓の組織を採取され、膵臓癌と診断された方が対象となります。
協力をお願いしたい内容と研究に使わせていただく試料・情報等の項目	診療の過程で得られた下記項目を本研究に使用させてください。 試料：【膵臓の組織（内視鏡および手術で採取されたもの）】 診療情報等：【年齢、性別、診断名、現病歴、既往歴、自覚症状、家族歴、検査データ】
試料・情報の他機関への提供	この研究は大阪公立大学医学部附属病院消化器内科、肝胆膵外科で行い、他の機関に試料・情報は提供いたしません。
この研究を行っている共同研究機関	この研究は大阪公立大学医学部附属病院の消化器内科、肝胆膵外科で行います。
試料・情報を管理する責任者	大阪公立大学大学院医学研究科 消化器内科学 研究責任者 丸山 紘嗣
本研究の利益相反	利益相反の状況については研究者等が利益相反マネジメント委員会に報告し、その指示を受けて適切に管理します。 本研究は、公益財団法人 内視鏡医学研究振興財団の助成金を受けております。
研究に協力をしたくない場合	下記に連絡することでいつでも本研究への協力を拒否することができます。また、研究への協力を断っても、診療に関する不利益等を受けることはありません。
連絡先	大阪公立大学大学院医学研究科 消化器内科学 （担当者氏名）丸山 紘嗣 電話番号：(06) 6645-3811 メールアドレス：hiromaruyama99@omu.ac.jp